

1 講 評

①第三者評価機関名

社会福祉法人茨城県社会福祉協議会

②施設名等

名称	: 樹学園	種別	: 児童養護施設
施設長氏名	: 野上 清治	定員	: 40名
所在地	: 茨城県東茨城郡茨城町小幡2765-4 TEL 029-219-0315		

③実施調査日

平成26年8月6日 ~ 平成27年3月16日

④総評

◇特に評価が高い点

事業計画に運営理念を明記し、子ども一人ひとりに対する養育・支援への考え方や方向が具体的に示され、事業計画をパートを含む全職員に配布して丁寧に説明し、十分な理解を促す取り組みをしている。

担当制を取り入れ、子ども一人ひとりと密接な関わりをもち、更に心理士との連携により、子ども一人ひとりを深く理解しており、小さな変化にも適切に対応をしながら養育・支援に取り組んでいる。

人権擁護についての意識が高く、「児童養護施設における人権擁護のためのチェックリスト」を用いて、全職員で勉強会を開催し、人権擁護について学ぶ機会を設けるとともに、子ども一人ひとりの権利を守る取り組みをしている。

第三者委員が子どもたちと一緒に食事をしながら話し合う機会を設けており、子どもの視点での苦情等を外部の人に直接話しができる取り組みをしている。

◇改善が求められる点

地域との交流を通して地域のニーズを把握し、施設の有する専門性を活かした事業や活動を展開することを期待します。

施設は、卒園した子どもにとっていつでも気軽に立ち寄り、相談ができる場所になるような取り組みを期待します。

これまでに実施された事業を振り返り、更なる事業の充実を目指し、人材育成や地域支援などについての中・長期計画を明確にし、今後の事業計画に反映させることを期待します。

⑤第三者評価結果に対する施設のコメント

今回の評価から、地域との交流については積極的に地域ニーズを把握し、施設として専門的な役割が果たせるように努力します。

家庭引き取り後の対応(アフターケア)については、関係機関との連携を更に強化し、子どもが安心できるような環境整備に努めます。

職員の人材育成に関しては、職員一人一人に研修・教育計画を策定し、資質の向上を図り、子ども達への支援強化に結びつけたいと考えています。

⑥第三者評価結果(別紙)

(別紙)

第三者評価結果

1 養育支援

(1)養育・支援の基本	第三者評価結果
① 子どもの存在そのものを認め、子どもが表出する感情や言動をしっかり受け止め、子どもを理解している。	b
② 基本的欲求の充足が、子どもと共に日常生活を構築することを通してなされるよう養育・支援している。	a
③ 子どもの力を信じて見守るという姿勢を大切に、子どもが自ら判断し行動することを保証している。	b
④ 発達段階に応じた学びや遊びの場を保障している。	b
⑤ 秩序ある生活を通して、基本的生活習慣を確立するとともに、社会常識及び社会規範、様々な生活技術が習得できるよう養育・支援している。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>担当制を取り入れ、子ども一人ひとりと密接な関わりをもち、更に心理士との連携により、子ども一人ひとりを深く理解しており、小さな変化にも適切に対応をしながら養育・支援に取り組んでいる。</p> <p>生活のルールなどせ、月1回要望を聴くために児童会議で話し合い、子どもの欲求を理解するよう努めている。</p> <p>年長の子どもへは、夜一人の時間になってから尋ねて行くなど、子どもが相談しやすいよう配慮をしている。</p> <p>職員は子どもに対して「こうすべき」と、ものさしに合わせた接し方をするのではなく、職員自身が生活に余裕を持ち、子どもの心を待てるよう努力することを期待します。</p> <p>年少児が中心の構成となっているが、今後、年齢が上がるに従い、自ら判断して行動することを保証するため、児童会議などを通して意見を汲みあげる工夫を期待します。</p>	
(2)食生活	第三者評価結果
① 食事は、団らんの場でもあり、おいしく楽しみながら食事ができるよう工夫している。	a
② 子どもの嗜好や健康状態に配慮した食事を提供している。	a
③ 子どもの発達段階に応じて食習慣を身につけることができるよう食育を推進している。	b
(3)衣生活	
① 衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものを提供している。	a
② 子どもが衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように支援している。	a
(4)住生活	
① 居室等施設全体がきれいに整美されている。	b
② 子ども一人一人の居場所が確保され、安全、安心を感じる場所となるようにしている。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>食事の時間や量、年齢の差等に配慮し、生活リズムをつけて楽しく食事ができるよう支援をしている。</p> <p>年2回担当職員と子どもと一緒に衣服の購入に行き、常に季節に合った清潔な衣服を提供している。</p> <p>個室を中心とした生活空間で、一人ひとりのプライバシーが確保されている。</p> <p>日常生活の中で、子どもたちが年齢に応じて食事の準備や後片付けを含めて食事づくりに参加する機会を多くしていくことを期待します。</p> <p>清掃は職員と子どもと一緒に、さらに土日は清掃の日として子どもたちが行っているが、整理整頓がさらに徹底されることを期待します。</p>	

(5)健康と安全	第三者評価結果
① 発達段階に応じ、身体の健康(清潔、病気、事故等)について自己管理ができるよう支援している。	b
② 医療機関と連携して一人一人の子どもに対する心身の健康を管理するとともに、異常がある場合は適切に対応している。	a
(6)性に関する教育	
① 子どもの年齢・発達段階に応じて、異性を尊重し思いやりの心を育てるよう、性についての正しい知識を得る機会を設けている。	b
(特に評価が高い点、改善が求められる点) 近隣の医療機関や嘱託医と連携をして健康管理をするとともに、身体の変化に適切に対応をしている。 年少児が多いため、職員が健康管理を行っているが、今後は、子どもたち自ら自分の健康管理ができるような支援を期待します。 子どもの発達段階に応じた性教育のプログラムを作成するとともに、適切な時期に性教育を実施することを期待します。	

(7)自己領域の確保	第三者評価結果
① でき得る限り他児との共有の物をなくし、個人所有とするようにしている。	a
② 成長の記録(アルバム)が整理され、成長の過程を振り返ることができるようにしている。	a
(8)主体性、自律性を尊重した日常生活	
① 日常生活のあり方について、子ども自身が自分たちの問題として主体的に考えるよう支援している。	a
② 主体的に余暇を過ごすことができるよう支援している。	a
③ 子どもの発達段階に応じて、金銭の管理や使い方など経済観念が身につくよう支援している。	a
(特に評価が高い点、改善が求められる点) 個人のロッカーを用意して大切な物はそこに保管させ、個人所有物は責任を持って自己管理ができるようにしている。 年齢に応じた班分けにした児童会議で問題や行事について話し合い、主体的に考えられるように支援をしている。 年齢に応じた小遣いを渡し、担当職員と話し合っ使うように支援をしている。 成長の記録としてのアルバムが職員によって作られており、子どもが希望する場合には何時でも見られるようにしている。アルバムには丁寧なコメントが記されており、その時々思い出とともに、成長の過程が振り返られるようになっている。	

(9)学習・進学支援、進路支援等	第三者評価結果
① 学習環境の整備を行い、学力等に応じた学習支援を行っている。	a
② 「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。	b
③ 職場実習や職場体験等の機会を通して、社会経験の拡大に取り組んでいる。	b
(特に評価が高い点、改善が求められる点) 談話室に座卓を置いて学習しやすい環境にし、毎日職員が指導や助言をしながら、子どもたちが宿題に取り組めるようにしたり、高校受験を控えたこどもは塾に行くなど、それぞれの年齢や学力に応じた学習支援をしている。 上級生が下級生を教えるなど、子ども同士で協力する姿勢ができています。 施設の立地場所も影響されるが、専門の指導者を確保するために工夫することを期待します。 進路の自己決定に際し、様々な制度についての情報を収集し、活用することを期待します。 職場実習や職場体験を施設として取り組み、社会経験の拡大に期待します。	

(10)行動上の問題及び問題状況への対応	第三者評価結果
① 子どもが暴力・不適応行動などの問題行動をとった場合に、行動上の問題及び問題状況に適切に対応している。	a
② 施設内の子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないよう施設全体で取り組んでいる。	a
③ 虐待を受けた子ども等、保護者からの強引な引き取りの可能性がある場合、施設内で安全が確保されるよう努めている。	b
(11)心理的ケア	
① 心理的ケアが必要な子どもに対して心理的な支援を行っている。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>問題行動を起こした子どもは落ち着かせ、他の子どもに害が及ばないよう別室に連れて行き、職員で連携して対応をしている。</p> <p>子ども間の暴力行動などについては、勉強会を通してチェックリストを用いた対応の統一を図っており、「どうしてそうなったのか」や「他の解決方法はなかったのか」など、具体的な問いかけをしながら子どもが納得できる方法を導き出す丁寧な対応をしている。</p> <p>心理職員を配置し、心理ケアの必要な子どもに対して支援をしている。</p> <p>「虐待対応マニュアル」は作成しているが、全職員に研修会などで周知を図り、内容を理解してもらうことを期待します。</p> <p>保護者からの強引な引き取りに際し、子どもの安全を最優先する対応策を構築することを期待します。</p>	

(12)養育の継続性とアフターケア	第三者評価結果
① 措置変更又は受入れに当たり継続性に配慮した対応を行っている。	b
② 家庭引き取りに当たって、子どもが家庭で安定した生活を送ることができるよう家庭復帰後の支援を行っている。	c
③ できる限り公平な社会へのスタートが切れるように、措置継続や措置延長を積極的に利用して継続して支援している。	c
④ 子どもが安定した社会生活を送ることができるよう退所後の支援に積極的に取り組んでいる。	c
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>卒園後も施設の職員や入所している子どもたちと交流ができる機会を設けるなど、卒園者が何時でも心よりどころとして立ち寄れる場所であるような支援の継続に期待します。</p> <p>措置延長など、個々の状況で必要となる支援体制について積極的に検討し、児童相談所等に働きかけることを期待します。</p>	

2 家族への支援

(1)家族とのつながり	第三者評価結果
① 児童相談所や家族の住む市町村と連携し、子どもと家族との関係調整を図ったり、家族からの相談に応じる体制づくりを行っている。	b
② 子どもと家族の関係づくりのために、面会、外出、一時帰宅などを積極的に行っている。	a
(2)家族に対する支援	
① 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>面会や外出、一時帰宅など、家庭の再構築のためにも積極的に取り組んでいる。</p> <p>子どもに関係する学校や地域、施設等の予定や情報を家族に随時知らせ、家族との信頼関係を構築できるよう努めることを期待します。</p> <p>児童相談所や市町村との関わりを積極的に進め、家族の状況把握や関係構築に取り組むことを期待します。</p>	

3 自立支援計画、記録

(1)アセスメントの実施と自立支援計画の策定	第三者評価結果
① 子どもの心身の状況や、生活状況を把握するため、手順を定めてアセスメントを行い、子どもの個々の課題を具体的に明示している。	b
② アセスメントに基づいて子ども一人一人の自立支援計画を策定するための体制を確立し、実際に機能させている。	b
③ 自立支援計画について、定期的実施状況の振り返りや評価と計画の見直しを行う手順を施設として定め、実施している。	a
(2)子どもの養育・支援に関する適切な記録	
① 子ども一人一人の養育・支援の実施状況を適切に記録している。	a
② 子どもや保護者等に関する記録の管理について、規程を定めるなど管理体制を確立し、適切に管理を行っている。	a
③ 子どもや保護者等の状況等に関する情報を職員が共有するための具体的な取組を行っている。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>子どもの心身状況や生活状況を把握し、ケース会議で検討・見直しをして具体的に対応をしている。記録は、子ども一人ひとりの行動等の要因を知っておくためや、職員の情報共有のためにも重要なもので、パソコンのソフトを活用して効率的に管理をしている。</p> <p>児童相談所から子どもの情報を得て自立支援計画を作成しているが、子どもの年齢や発達段階に応じたアセスメントができるよう、施設として一定の手順や様式を確立させることを期待します。</p>	

4 権利擁護

(1)子どもの尊重と最善の利益の考慮	第三者評価結果
① 子どもを尊重した養育・支援についての基本姿勢を明示し、施設内で共通の理解を持つための取組を行っている。	a
② 社会的養護が子どもの最善の利益を目指して行われることを職員が共通して理解し、日々の養育・支援において実践している。	a
③ 子どもの発達に応じて、子ども自身の出生や生い立ち、家族の状況について、子どもに適切に知らせている。	b
④ 子どものプライバシー保護に関する規程・マニュアル等を整備し、職員に周知するための取組を行っている。	b
⑤ 子どもや保護者の思想や信教の自由を保障している。	a
(2)子どもの意向への配慮	
① 子どもの意向を配慮する具体的な仕組みを整備し、その結果を踏まえて、養育・支援の内容の改善に向けた取組を行っている。	a
② 職員と子どもが共生の意識を持ち、子どもの意向を尊重しながら生活全般について共に考え、生活改善に向けて積極的に取り組む。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>権利擁護をパンフレットや事業計画書に記載するとともに、施設内外の研修に参加して理解を深めている。</p> <p>児童会議を毎月開催して子どもたちの意向を確認するとともに、年1回理事長と子どもたちが話し合う機会を設け、子どもたちと率直な意見交換ができるようにしている。</p> <p>全国児童養護施設協議会の「自主評価」を定期的実施し、課題に対し施設全体で取り組んでいる。</p> <p>子どもにとって、自分の生い立ちを知ることは自立生活の大切な要素となる場合があります。信頼関係に裏打ちされた対応が求められるが、伝え方及びその後の関わりについて検討することを期待します。</p>	

(3)入所時の説明等	第三者評価結果
① 子どもや保護者等に対して、養育・支援の内容を正しく理解できるような工夫を行い、情報の提供を行っている。	a
② 入所時に、施設で定めた様式に基づき養育・支援の内容や施設での約束ごとについて子どもや保護者等にわかりやすく説明している。	b
③ 子どものそれまでの生活とのつながりを重視し、そこから分離されることに伴う不安を理解し受けとめ、不安の解消を図っている。	a
(4)権利についての説明	
① 子どもに対し、権利について正しく理解できるよう、わかりやすく説明している。	a
(5)子どもが意見や苦情を述べやすい環境	
① 子どもが相談したり意見を述べたい時に相談方法や相談相手を選択できる環境を整備し、子どもに伝えるための取組を行っている。	a
② 苦情解決の仕組みを確立し、子どもや保護者等に周知する取組を行うとともに、苦情解決の仕組みを機能させている。	a
③ 子ども等からの意見や苦情等に対する対応マニュアルを整備し、迅速に対応している。	a
(6)被措置児童等虐待対応	
① いかなる場合においても体罰や子どもの人格を辱めるような行為を行わないよう徹底している。	a
② 子どもに対する暴力、言葉による脅かし等の不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	a
③ 被措置児童等虐待の届出・通告に対する対応を整備し、迅速かつ誠実に対応している。	a
(7)他者の尊重	
① 様々な生活体験や多くの人たちとのふれあいを通して、他者への心づかいや他者の立場に配慮する心が育まれるよう支援している。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>人権擁護についての意識が高く、「児童養護施設における人権擁護のためのチェックリスト」を用いて、全職員で勉強会を開催し、人権擁護について学ぶ機会を設けるとともに、子ども一人ひとりの権利を守る取り組みをしている。</p> <p>権利ノートを活用し、児童会議等で子どもの権利について話し合っている。</p> <p>第三者委員が子どもたちと一緒に食事をしながら話し合う機会を設けており、子どもの視点での苦情等を外部の人に直接話しができる取り組みをしている。</p> <p>併設する特別老人ホームの利用者との交流を行い、多くの人と触れ合う機会を設けている。</p> <p>平均年齢が低く、子ども自身への納得のいく説明等は難しい現状ではあるが、年少の子どもにもわかり易く説明ができるものを整備することを期待します。</p>	

5 事故防止と安全対策

(1)事故防止と安全対策	第三者評価結果
① 事故、感染症の発生時など緊急時の子どもの安全確保のために、組織として体制を整備し、機能させている。	a
② 災害時に対する子どもの安全確保のための取組を行っている。	a
③ 子どもの安全を脅かす事例を組織として収集し、要因分析と対応策の検討を行い、子どもの安全確保のためにリスクを把握し対策を実施している。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>事故や感染症の発生、緊急時の子どもの安全などのマニュアルを作成して職員に周知をしている。</p> <p>災害時の安全確保のため、定期的に訓練を実施するとともに、食糧などを備蓄している。</p> <p>ヒヤリハットの検証による安全対策は実施しているが、子どもの安全を脅かす他の事例も収集し、その分析と対応について更なる検討をすることを期待します。</p>	

6 関係機関連携・地域支援

(1)関係機関等の連携	第三者評価結果
① 施設の役割や機能を達成するために必要となる社会資源を明確にし、児童相談所など関係機関・団体の機能や連絡方法を体系的に明示し、その情報を職員間で共有している。	b
② 児童相談所等の関係機関等との連携を適切に行い、定期的な連携の機会を確保し、具体的な取組や事例検討を行っている。	a
③ 幼稚園、小・中学校、高等学校、特別支援学校など子どもが通う学校と連携を密にしている。	a
(2)地域との交流	
① 子どもと地域との交流を大切にし、交流を広げるための地域への働きかけを行っている。	a
② 施設が有する機能を地域に開放・提供する取組を積極的に行っている。	c
③ ボランティア受入れに対する基本姿勢を明確にし、受入れについての体制を整備している。	b
(3)地域支援	
① 地域の具体的な福祉ニーズを把握するための取組を積極的に行っている。	c
② 地域の福祉ニーズに基づき、施設の機能を活かして地域の子育てを支援する事業や活動を行っている。	c
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>他施設との勉強会を実施し、積極的に事例検討などを行っている。 子ども達の通う学校とは「樹学園・学校及び教育委員会との連絡会」を年1回開催するなど、組織的な関わりをもつとともに、日々電話等で連絡を取り合うなど、連携を密にしている。 地域の子ども会活動に参加したり、町の音楽祭に参加したり、地域団体の事業に参加したりするなど、地域との交流を図っている。 施設の立地場所もあるが、地域住民との交流が積極的に行われることを期待します。 夏祭りやクリスマスの行事に呼びかけをしているが、地域の福祉ニーズの把握に積極的に取り組み、施設の有する専門性を活かした事業や活動を展開することを期待します。</p>	

7 職員の資質向上

(1)職員の資質向上	第三者評価結果
① 組織として職員の教育・研修に関する基本姿勢が明示されている。	b
② 職員一人一人について、基本姿勢に沿った教育・研修計画が策定され計画に基づいて具体的な取組が行われている。	c
③ 定期的に個別の教育・研修計画の評価・見直しを行い、次の研修計画に反映させている。	c
④ スーパービジョンの体制を確立し、施設全体として職員一人一人の援助技術の向上を支援している。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>施設長は、朝礼や申し送り時に対応した事例への的確な評価を随時行っており、職員の信頼の基でスーパーバイズに努めている。 施設全体として職員の資質向上のための研修を実施しているが、施設が求める専門性などを明確にしたうえで、職員一人ひとりについての教育・研修計画を策定し、計画が実施されることを期待します。 研修計画の評価や見直しを行い、次の研修計画に反映させることを期待します。</p>	

8 施設の運営

(1) 運営理念、基本方針の確立と周知	第三者評価結果
① 法人や施設の運営理念を明文化し、法人と施設の使命や役割が反映されている。	a
② 法人や施設の運営理念に基づき、適切な内容の基本方針が明文化されている。	a
③ 運営理念や基本方針を職員に配布するとともに、十分な理解を促すための取組を行っている。	a
④ 運営理念や基本方針を子どもや保護者等に配布するとともに、十分な理解を促すための取組を行っている。	c
(2) 中・長期的なビジョンと計画の策定	
① 施設の運営理念や基本方針の実現に向けた施設の中・長期計画が策定されている。	c
② 各年度の事業計画は、中・長期計画の内容を反映して策定されている。	c
③ 事業計画を、職員等の参画のもとで策定されるとともに、実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われている。	a
④ 事業計画を職員に配布するとともに、十分な理解を促すための取組を行っている。	a
⑤ 事業計画を子ども等に配布するとともに、十分な理解を促すための取組を行っている。	c
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>事業計画に運営理念を明記し、子ども一人ひとりに対する養育・支援への考え方や方向が具体的に示され、事業計画をパートを含む全職員に配布して丁寧に説明するとともに、十分な理解を促す取り組みをしている。運営理念や基本方針を職員には配布しているが、子どもや保護者にも配布し、理解を促すことを期待します。これまでに実施した事業を振り返り、更なる事業の充実を目指し、人材育成や地域支援などについて、中・長期計画に明確にし、今後の事業計画に反映させることを期待します。子どもには行事計画だけでなく、年齢等に合った分かりやすい施設の方針を伝える工夫を期待します。</p>	
(3) 施設長の責任とリーダーシップ	第三者評価結果
① 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して明らかにし、専門性に裏打ちされた信念と組織内での信頼をもとにリーダーシップを発揮している。	a
② 施設長自ら、遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行い、組織全体をリードしている。	a
③ 施設長は、養育・支援の質の向上に意欲を持ち、組織としての取組に十分な指導力を発揮している。	a
④ 施設長は、経営や業務の効率化と改善に向けた取組に十分な指導力を発揮している。	a
(4) 経営状況の把握	
① 施設運営をとりまく環境を的確に把握するための取組を行っている。	b
② 運営状況を分析して課題を発見するとともに、改善に向けた取組を行っている。	b
③ 外部監査(外部の専門家による監査)を実施し、その結果に基づいた運営改善が実施されている。	c
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>施設長は、職員の朝の引き継ぎに毎日参加し、一人ひとりの意見を聞いたり、必要に応じ面接をしたりして職員の状況を把握し、改善に取り組んでいる。</p> <p>施設長は、子どもの養育・支援についての高い専門性を有し、養育・支援の向上に意欲的に取り組むとともに、子どもの権利を重視した養育・支援への取り組みは、自らも研修を受講しながら全職員で勉強会を実施し、日々の取り組みを検証している。</p> <p>外部監査の実施により、改善の必要のあるものについては改善計画に基づき組織的に改善されることを期待します。</p>	

(5) 人事管理の体制整備	第三者評価結果
① 施設が目標とする養育・支援の質を確保するため、必要な人材や人員体制に関する具体的なプランが確立しており、それに基づいた人事管理が実施されている。	b
② 客観的な基準に基づき、定期的な人事考課が行われている。	c
③ 職員の就業状況や意向を定期的に把握し、必要があれば改善に取り組む仕組みが構築されている。	b
④ 職員処遇の充実を図るため、福利厚生や健康を維持するための取組を積極的に行っている。	b
(6) 実習生の受入れ	
① 実習生の受入れと育成について、基本的な姿勢を明確にした体制を整備し、効果的なプログラムを用意する等積極的な取組をしている。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>職員の自己評価を定期的実施するとともに、理事長との面談を年1回行い、職員の意向を汲みあげている。</p> <p>養育・支援の質の高い人材を確保するためにも、人材育成や人員体制に関するプランを確立することを期待します。</p> <p>職員の意向を把握しているが、定期的な人事考課が行われていないので、把握した内容を活かした人事考課に取り組むことを期待します。</p> <p>実習生の受け入れにあたっては、養成学校と連携しながら、計画的に学べるプログラムを施設独自に作成するとともに、実施することを期待します。</p>	

(7) 標準的な実施方法の確立	第三者評価結果
① 養育・支援について標準的な実施方法を文書化し、職員が共通の認識を持って行っている。	b
② 標準的な実施方法について、定期的に検証し、必要な見直しを組織的に実施できるように仕組みを定め、検証・見直しを行っている。	b
(8) 評価と改善の取組	
① 施設運営や養育・支援の内容について、自己評価、第三者評価等、定期的に評価を行う体制を整備し、機能させている。	a
② 評価の結果を分析し、施設として取り組むべき課題を明確にし、改善策や改善実施計画を立て実施している。	c
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>標準的な方法を記したマニュアルを整備し、職員が日常的に活用して子ども一人ひとりの状況に応じた養育・支援を行うことを期待します。</p> <p>自己評価は定期的に行っているが、第三者評価は今年度初めてなので、今後評価結果の分析をし、課題を明確にするとともに、改善に取り組むことを期待します。</p>	